

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

卒業認定・学位授与の方針に掲げた能力の修得を目標として、以下の方針にしたがって、教育課程の編成、実施及び学修成果の評価を行います。

【教育課程編成方針】

1. 現代の地域や国際社会の抱えている諸課題を理解、分析する際の基礎となる幅広い基礎的教養を身につけるための共通教育科目と、異文化・多文化や国際的（グローバル）な産業構造及び地域社会における具体的な課題を理解・分析する能力を修得するための人文・社会科学を中心とした様々な分野の専門科目によって構成されるカリキュラムを編成します。
2. 地域や国際社会の複合的な諸課題を科学的方法を用いて調査・分析・考察する能力を身につけることができるリサーチリテラシー科目やデータサイエンス科目からなる総合科学科目（文理融合型科目）によって構成されるカリキュラムを編成します。
3. 実践的な事例研究やワークショップ等を含むプロジェクト学修を学年進行に従って継続的に深めながら、地域や国際社会の諸課題の探求と解決に能動的に取り組み、それを通じて課題解決力、協働的な学修能力、批判的考察力を養う科目によって構成されるカリキュラムを編成します。
4. 異文化コミュニケーションの礎となる実践的な英語運用能力を修得するために、4技能のバランスのとれた英語科目を実施します。さらに、日本を含む英語圏以外の伝統や文化を理解し、それを通じて異文化及び自文化を捉え直す能力を養うための多様な科目から成るカリキュラムを編成します。

【教育課程実施方針（教育・学習方法に関する方針）】

1. 授業はその内容や目的に応じて、講義、演習、実習、プレゼンテーションあるいはこれらを組み合わせた形態で実施します。
2. 課題探求プロジェクト科目及び英語科目を中心として、アクティブラーニング形式での授業を積極的に行い、教室でのグループワーク、インターンシップや学外機関との連携を含む学外での活動への参加、調査、留学や海外研修などの現地での活動を実施することによって、学問知と実践知を結びつけ、能動的に課題に取り組む態度と社会における実践的な課題解決能力を身につけることを目指します。
3. 4年次までの共通教育科目と専門教育科目の学修の中で生まれた関心・課題意識をもと

にテーマを選び、主査教員及び副査教員の指導の下で、学位授与にふさわしい能力を身につけたことを証明する総合的な学修成果である卒業論文を作成するための卒業研究科目を実施します。

4. 詳細なシラバス、科目ナンバリング、履修登録単位制限（CAP 制）、履修中止、上書き再履修等によって、学生が系統的に自らの能力に応じて授業を履修できる体制を整えます。
5. 助言教員制度に基づいて、各学生に助言教員を配置し、オフィスアワーを設けて学修をはじめとした学生生活全般に関する助言、指導を行うとともに、GPA が 2.00 を下回った学生に対しては、学修改善支援制度による支援を行います。

【学修成果評価方針】

1. 成績評価については、「福井大学における多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン」に沿って、科目ごとに適した多様な方法によって学修目標到達度を評価します。各科目の到達目標と具体的な評価方法はシラバスに記載します。
2. 各科目の成績は A+ から F の 13 段階の標語によって評価し、目標到達度を考慮した判断基準については履修手引に記載します。
3. 「卒業研究」については、①先行研究のリサーチ (15%)、②研究方法と分析・解釈 (20%)、③論理的な整合性と言語表現 (15%)、④結論や知見 (15%)、⑤学術的な表現形式 (10%)、⑥口頭発表 (5%)、⑦研究態度 (20%) によって評価します。
4. 卒業研究を含む各科目の成績を総合的に評価し、卒業認定・学位授与の方針に掲げられた能力の到達度を評価します。卒業研究が A- 以上かつ GPA3.50 以上の学生には、申請に基づいて優等学位の証明書を授与します。
5. 英語で開講される専門科目の一定以上の単位修得、交換留学、英語による卒業研究の実施等、学部が設定した要件を満たした学生を、申請に基づいて「英語力優等者」として認定します。